

令和元年 12 月
四国支所

令和元年度森林総合研究所四国地域公開講演会の開催報告

表記について、下記のとおり開催したので、報告します。

1. 日時 令和元年 11 月 30 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
2. 場所 こうち男女共同参画センター ソーレ 大会議室
3. テーマ 「四国の森林にすむ生き物たち」
4. 参加者数 41 名
5. 概要

四国支所では研究成果の広報・普及のために、公開講演会を毎年開催しています。今回の講演会の開催に当たっては、民間団体である高知生物多様性ネットワークに共催していただきました。講演会は「四国の森林にすむ生き物たち」というテーマで、森林の動植物の暮らしぶりについて紹介することを目的として、四国支所から 2 名の職員が講演したほか、高知生物多様性ネットワークから講演者を 2 名推薦していただきました。各講演の概要は次の通りです。

講演 1. 石川慎吾氏（高知大学名誉教授）

「四国山地におけるシカの増加と植生の変化」

四国山地ではニホンジカの個体数が急激に増加に伴い、過剰な採食による植生の変化が進行しています。特に植生変化の激しい三嶺山域におけるササ草原の消失とその後の植生変化について示すとともに、官民共同による「三嶺の森をまもるみんなの会」が設置した防鹿柵による植生の保全効果について紹介されました。

講演 2. 大谷達也（森林総合研究所四国支所森林保育管理担当チーム長）

「分布北限域で生きるアコウとコバチの生活」

温帯に生育する植物は種ごとに決まった季節に開花・結実しますが、熱帯から広く分布し、室戸岬周辺を北限とするクワ科の樹木アコウは、一年中いずれかの個体が実を付けています。熱帯性を保ちながら温帯に生育しているアコウの開花・結実の周期や花粉媒介者であるコバチとの共生関係について紹介しました。

講演 3. 谷地森秀二氏（高知県越知町立横倉山自然の森博物館）

「四国の森林に暮らすコウモリ ―これまでの調査で分かってきたこと―」

日本国内で記録のあるコウモリ 38 種のうち、四国には 16 種のコウモリが生息しています。これは周辺地域の近畿、中国、九州の各地方よりも多く、四国でコウモリの調査が進んでいることを示しています。四国 4 県で確認種はそれぞれ異なっていることや、多くの種が確認できた森林の様子が紹介されました。

講演 4. 佐藤重穂（森林総合研究所四国支所産学官民連携推進調整監）

「行く虫・来る虫 -日本から出て行った虫と日本にきた虫―」

外来生物は生態系の保全の上で大きな脅威であり、北米で針葉樹のツガを枯死させる害虫として猛威を振るうハリモミカサアブラムシは日本からの侵入種ですが、四国の森林ではひっそりと生きている様子を紹介しました。また、近年、中国から日本に侵入したサクラやモモの害虫クビアカツヤカミキリの四国での被害の状況について示しました。

この他、ポスター発表として、四国支所の研究員による最近の研究成果を紹介したほか、森林整備センター中国四国整備局の業務紹介、および高知生物多様性ネットワークによる生物多様性こうち戦略の紹介がありました。

参加者から発表者に対して熱心な質問があり、それに発表者が回答するなど、活発な意見交換が行われました。



講演 1（石川氏）



講演 2（大谷）



講演 3（谷地森氏）



講演 4（佐藤）



ポスター発表